

どんなタクシーに乗っても大丈夫？

特集1 使える！市内を快適に

ヤンゴンお役立ち交通情報

バスが安くて便利なのはわかるけど…

タクシー内に忘れ物、どうすれば？

近年は市内での車が増え、移動が便利になった反面、大きな交通渋滞も招いている。利用者として注意が必要なことも多い。今回はタクシーと路線バスにしろ、ヤンゴンの交通事情やイザというときに知っておきたい情報をお届けしたい。

バス停は？近所のバスはどこ行き？

◆ヤンゴン交通事情◆

市内の移動には、タクシー、バスの利用が一般的。また、一部の規制地区を除きバイクや自転車の利用も目立つ。交通機関を

利用するときは、市内の主要道路名やエリア名を覚えておくと便利だ。タクシーやバスで行き先をおおまかに伝える際にも使える。

移動の際は、慢性的に発生している交通

渋滞に注意が必要。特に朝夕のラッシュ時には、大渋滞が発生することもある。また、交通マナーは年々改善されてはいるが、交通事故件数に対する死亡者数は増加の一途で、普段から注意が必要といえる。



タクシー事情

タクシーは日本人の足。安全に利用したい。

タクシーの基本を覚えよう！

粘り強く、料金交渉を

日本と大きく異なるのは、運賃が交渉制なこと。事前に行き先までの相場をミャンマー人や滞在歴の長い日本人に聞き、交渉に望めればベター。外国人料金を提示され、交渉が成立しないことも結構あるから我慢も必要だ。

信頼できそうな車に乗る

一部だが、無認可のタクシーが客引きをしていることがある。信頼性に欠けるので、「CITY TAXI (※1)」の表示がある車の利用をお勧めする。

また、5,000Ks や 10,000Ks 紙幣だと、つり銭がないと嘘をつかれることもある。そんな時は、周囲の店で両替をしてもらうように頼むべし。

なお、乱暴運転もかなりあり、特に雨天時や夕方は事故が多発する。危険を感じたら、運転手に安全走行を促し、もし応じない場合は速やかに車を降りよう。

※1: CITY TAXI とは
ヤンゴン市開発委員会 (YCDC) 管轄で、タクシーの登録 & 管理を行っている。タクシーの営業希望者は原則登録が必要で、車体外のステッカーと写真付・名前入りの証明 (ミャンマー語・英語表記) を助手席前と運転手の座席後ろに掲示。登録台数は現在3万台以上、昨年比で倍増。



◎便利な利用法

タクシーを借り切る

近郊旅行などでは、タクシーを借り切るのも便利。運賃は運転手と直接交渉して決めるケースがほとんどだ。1時間 5,000Ks ~ 7,000Ks (約 500円~約 700円) が相場だが、交渉次第で多少の値引きもできる。

Close Up!

◎忘れ物をしたら・・・

車内に忘れ物をしたことがわかったら、すぐに「CITY TAXI Information (※2)」に電話を。ミャンマー語と英語、そしてなんと日本語も通じる場合もあるから非常にありがたい。以下が手掛かりとなる。

- CITY TAXI ナンバー (一部でも) ○車のナンバー (一部でも) ○車の色・種類 ○特徴となるマーク
- 運転手の名前・顔 ○忘れ物の形状や色など

見つかった場合は、届けてくれることもあれば、「CITY TAXI Information」など市内の指定場所に取りに行く場合もある。

どんな問い合わせが？

荷物やパスポート、パソコン、金銭などの他、警察からは交通事故の状況把握もあるという。1カ月に300件以上の連絡がある (90%以上がミャンマー人)。

※2: CITY TAXI Information
CITY TAXI プレート番号の印刷、データベース登録・管理、忘れ物の対応などを行う



携帯電話のカメラで撮っておけば、万が一の場合でも対応できる



ナンバーがわかれば90%の確立で車を特定できる



CITY TAXI Information

No.31A, 2F/A, 165 Street, Tamwe Township, Yangon
☎ 09-250268422 (日本語対応可: ミョウ)
月~土 9:00~18:00
※タクシーの営業許可には登録が必要で、ナンバーの取得が義務付けられている。登録は上記「CITY TAXI Information」で行う。



路線バス事情 使いこなせれば、どこにでも行けるようになる!?

路線バスの基本を覚えよう!

市内のメインロードを網羅する

バスは大型バス（日本・韓国などの中古バス）、軽トラックバス、ミニバスの3種類。さらに大型バスには3種類あり、座席が一応確保された特別バスと普通バス、最近ではエアコンバスも登場した。路線番号やルートはバスの正面上部や側面に明記されているが、ミャンマー語表記のため、少し勉強していないと把握は困難かもしれない。

俊敏さと臨機応変さがポイント

停留所は屋根付きから、標識すらないものまで様々。ドアは1つしかないため、降りる人を待ち、乗り込むのが基本だ。運賃は、乗車してすぐ回収に来る乗務員に渡す。降りるときは早めに出口前に立つこと。停車時間はアバウトなので、注意が必要。混み具合によっては、乗車を拒否されることも。



☆料金は・・・

特別バスは2駅程度の近距離なら100Ks、他はどれだけ乗っても200Ks。普通バスなら半額の料金。エアコンバスは特別バスの100Ks増し（といってもエアコンがかかっていることはほとんどない）。外国人料金はなし。

乗ってみなきゃわからない! 路線バスのイイところ・困るところ

ここがイイ!

メリット1

とにかく安い。空港近くからダウンタウンまで乗っても200Ks（約20円）。タクシーだと6,000Ks～8,000Ksくらいだから、とってもお得。

メリット2

特別バスで座席を確保できた場合に限るが、比較的ゆったり座れる。タクシーから見ると異なり、少し高い目線からの眺めで新たな発見も!



メリット3

ヤンゴンを身近に感じられる。肌が触れ合うほど地元の人々と距離が近い。席の譲り合いなど、様々な人間様様が垣間見られることもあるからおすすめ。

ここが困る!

トラブル1

ルートの変更が頻繁。同じ番号のバスでも途中から行き先が変わることも。

→ ミャンマーは行き先を主張すれば、乗務員が乗客が助けてくれることが多い。勇気を出して意思表示を。

トラブル2

渋滞ならまだいいが、バスの中は東京の通勤電車並みの混みよう。

→ 電車がほとんどないヤンゴンでは、市民の重要な足であるバス。朝夕の通勤時間帯はどことも利用客で混雑している。スリ被害などにも注意したい。

トラブル3

急停車、急発進が多い。また中古バスのため、痛んでいて金属がむき出し…。

→ 自分の安全は確保すること。バスの故障で停車することも珍しくない。

◎バス路線の調べ方

バス路線を記した地図はミャンマー語だが、書店や露天等で購入可能。路線ごとに行き先が明記されている。



バス路線を記した簡易ミニ本

だから路線バスは面白い 体験談いろいろ

◆「バスの車掌さんに自分の行き先を告げ、乗る路線を確かめます。混雑していても、降車の停留所になると車掌さんが教えてくれるので心配ありません」 在住者Aさん

◆「バスに乗ると必ず目にするのが、お年寄りや妊婦に席を譲る若者たち。外国人にもやさしく、席を案内してくれます。仏教の国なのだなと実感します」 旅行者Bさん

バスの達人に聞く! 乗る際のポイント

1. スリ防止も考え、乗る前に200Ks札・100Ks札をポケットに入れ、すぐ出せる体制に。
2. 乗るバスがわからない場合は、バス停周りのミャンマー人に何番か、乗り場はどのあたりかを教えてもらう。
3. 乗る際に入り口前の兄さんの行き先ア

ナウンスをよく聞き、地名を聞き逃さない。わからなかったら目印となる地名を口に出し主張して確認。

※その他のポイント

「時間に余裕がある時に楽しむ」「行き先を間違っても動じない」「不確定なところがミャンマーのよさ」「慣れないうちは通勤時間帯を避ける」「メインロードで人の集まっているところが、ほぼバス停」etc

旅行者&在住者に使い勝手がよいおすすめ路線バス

48番 インセイン地区からレーダンやミエニゴン、ダウンタウンのスレーパゴダをつなぐ路線がお得で便利。

これさえ覚えておけば大丈夫 バスで使えるミャンマー語

セインメー
(降ろして!)

表示:

အထူး

(アトゥー/特別バス)

၄၈ (48) などのバス番号、これを機に数字を覚えよう!



◎長距離バスの利用

チケット売り場は長距離バス停の各バス会社窓口の他、旅行代理店で購入できる



バガンやマンダレー行きのあるアウンミンガラーのバス停